インタビュー

ユビキタス時代のビジネススタイルを変革させる ビル経営のIT基盤

統合マネジメント基盤を核にファシリティレイヤからネットワークレイヤ、アプリケーションレイヤまでの垂直統合を実現するIT基盤トータルソリューション「VANADIS」を軸に事業展開するNTTデータのビジネスソリューション事業本部。ユビキタス時代の経営に欠かせないビルのIT基盤を中心に、経営をサポートするビルづくりを実現する統合ビルディングソリューション「VANADISビルディング」の最近の取組みについて、田邊仁一執行役員・ビジネスソリューション事業本部長にうかがった。

個人を大事にする企業文化やワークスタイルが必要

――初めに、統合マネジメント基盤を核としたIT基盤トータルソリューション「VANADIS」を軸にビジネスを展開されていますが、最近の状況からお聞かせください。

田邊　私どものビジネス環境は今、変革期を迎えていると言えます。最近ではコンプライアンスや内部統制の徹底が強く叫ばれるようになりましたし、個人情報保護をはじめ“情報”に対する危機意識が、ここ数年でガラッと変わってきました。また、個々人の価値観も非常に多様化してきており、特に若い世代を中心にそれぞれの価値観に応じたライフスタイルやワークスタイルを求める動きも加速しています。少子高齢化で若年労働者の数が減りつつある中、企業が人材を確保するためには、多様な価値観を持つ個々人を大事にする企業文化やワークスタイルの提示が求められています。一方、ICTの革新により、場所（ワークプレイス）・時間にとらわれない働き方、すなわちテレワークやモバイルワークが可能になりました。そこで、オフィスの移転や統合化に伴い、ワークスタイルの変革を検討する企業が増えています。NTTデータも様々な施策を導入し始めています。

IT基盤のしっかりしたビルで経営をサポート

――ワークスタイル変革を実現するオフィスから視野を広げると、その器であるビルのニーズも変化してきているのではないでしょうか？

田邊　そのとおりです。ワークスタイル変革、セキュリティへの意識の高まり、コンプライアンスやCO_2削減など環境問題への対応といった様々な課題は、ビルオーナにも、ビルに入居するテナントにも共通の関心事です。オーナにとっては、環境に優しく、管理しやすく、長期的コストを削減しながら、利益を生むビルであること、テナントにとっては、セキュアで省エネルギー、そして何よりも使いやすいビルであることが重要です。

省コスト、高機能化という従来からの視点に加えて、現在は、ビルに求められる機能が複雑化、高度化してきており、その中でITが果たす役割も高まっています。つまり、ビルを設備として管理するだけではなく、最新のITツールで武装化して、長期にわたった経営環境の変化にも柔軟に追随できる経営資源にしなくてはなりません。このためには、ビル建設時から運用まで見据えてどのようにITを導入するか考えて、ビル全体で調和の取れた最適化設計をしておく必要がありますが、実際にはビルが出来上がってから初めて、その中で利用するITをどうするか考え始める、といったことが多いようです。そしてその結果、コスト高になったりテナントにとって使い勝

㈱NTTデータ
執行役員
ビジネスソリューション事業本部長
田邊 仁一氏

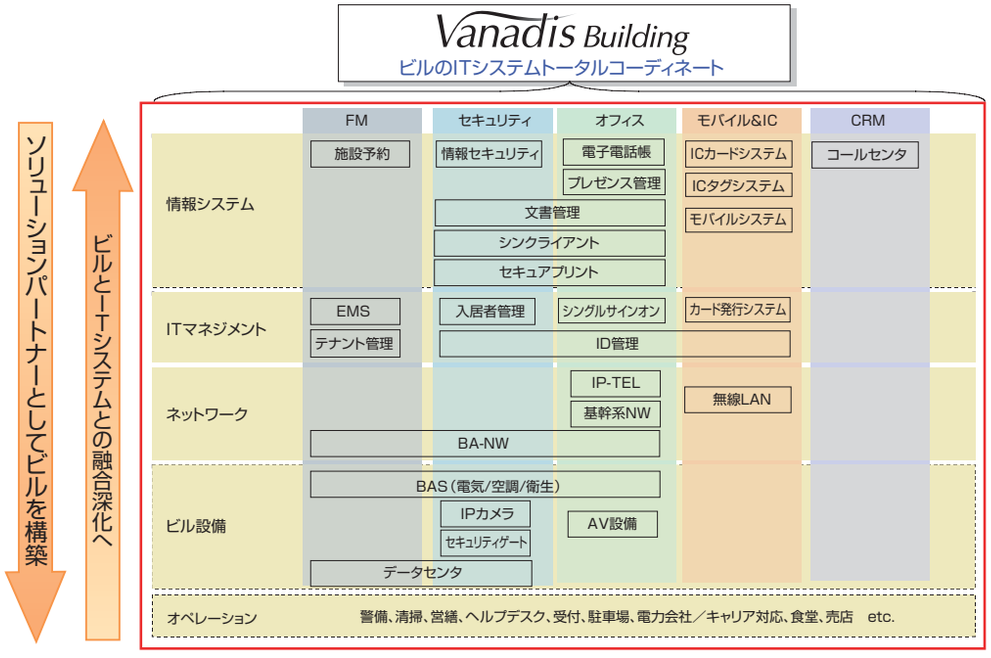

図1　VANADISビルディングのビジョン

手がよくなかったり、ということが起きてしまいがちです。

VANADISビルディングでユビキタス時代のビル環境を構築

――内部統制も情報セキュリティも、企業としていかにきちんとマネジメントするかが重要で、その意味では統合マネジメント基盤を核にしたトータルソリューション「VANADIS」に対する期待は大きいと思いますが、ビルと連携したソリューションの狙いは何ですか。

田邊　VANADISの原点である3つのキーワード、「空間（リアルワークプレイス）」「IT（バーチャルワークプレイス）」「運用（マネジメント＆ルール）」はビルに拡げることでより効果が上がります。ビルのIT基盤として、様々なソリューションを統合して、ビル建設の計画・設計段階から組み込むことが、「VANADISビルディング」の狙いです（図1参照）。

――具体的にはどのようにサービスを提供されるのですか。

田邊　ビルの計画・設計当初からSIerとして参画し、設備の監視・制御システム（BAS）の構築、光ブロードバンドや無線アクセスなどのネットワーク構築、IPカメラ、IP電話など各種メディアアプリケーションの構築、ICカードやバイオメトリクスなどによるセキュリティシステムの構築、ビル入居者業務の生産性向上やコスト削減を図るオフィス情報システムの構築、遠隔集中監視やビルの環境性能把握などビル管理を効率化するビルシステム構築のすべてを一元的に計画し、設計・施工・管理・運用までビルのITシステムトータルコーディネイトを実施します。

これは、ITに加え、建築・電力にも優れたノウハウを持つSIerとしてのNTTデータならではのサービスで、ビルオーナや入居者の高度化・多用化するニーズに応じたビル環境を創出することを目指しています。

――このコンセプトに基づいての導入例はありますか？

田邊　昨年本社隣に新たに建設された豊洲センタービルアネックスでは、「新たなワークスタイル／プレイスの実現」「ビルセキュリティの強化」「多様なワークスタイルを支える情報インフラの構築」をテーマに、ビル建設計画時よりワークスタイル変革を意識したビル作りを行いました。他にも、例えば、自席を固定しないフリーアドレスオフィスを導入し、営業部門ではないにも関わらず3割程度のスペースを削減できました。営業部門であれば、さらにスペースを節約することができます。そして、このスペースを組織の枠を超えたコミュニケーションスタイルの確立に充てることで、コミュニケーションも活性化し、生産性を上げることができました。

――本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長　河西義人）